

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞ 2020.3.11

## JAL闘争を支える京都の会New No.64

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

「娘はJALに人生かけると言っていたのに！」

反弾圧で闘う関生の仲間も参加

JAL稻盛名誉顧問の地元宣伝

3月1日、JAL争議勝利めざして、

京都市伏見区商店街で宣伝行動

小春日和となった3月1日、安倍首相の東京オリンピック開催至上主義のための「集会・行事自粛要請」などものともしないたくさん日本人客でぎわう京都市伏見区大手筋商店街で、JAL 165名解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動を繰り広げた。この地は稻盛和夫JAL名誉顧問地元の京都でも有名な商店街であった。

この日、JAL闘争を支える京都の会が呼びかけ、ユニオンネットワーク・京都に参加する地元の労働組合や反弾圧闘争を闘う連帯ユニオン関西地区生コン支部の仲間、そして京都総評加盟の合同纖維、郵政ユニオン、自立労連などたくさんの仲間とJAL争議団が複数参加した。

大きな横断幕2本を広げて、道行く人にハンドマイクで訴え、1時間15分で480枚のチラシが配布された。



争議団や支援の仲間がチラシを配布していると、年配の女性がかけより、「うちの娘も40代だったがJALのCAをしていて、『JALに人生をかける』と言っていたのに希望退職に無理やり応じさせられ退職した」と、本当に残念だった、頑張ってほしいと訴えた。「稻盛か！」と、20分も30分も話しかけてくる熱心な通行人の方々が後を絶たなかった。

JAL争議団の小森啓子さんや神瀬麻里子さん

が「この年末で 10 年！なんとしてもあの空に戻りたい」と訴えた。未曾有の大弾圧を受けても、めげず闘っている関生支部からは多数の仲間が参加され、「JALの労組同様に、闘う労働組合つぶしと闘っている。警察が労組をやめろ、いつまでも取り調べで完全黙秘でやってると一生出てこれないぞと不当逮捕した家族に刑事が脅しをかけるが、地域の市民・労働者と一緒に勝利めざして頑張る」とマイクで訴えた。



きょうとユニオンの野村貴副委員長は、「稻盛和夫が記者会見で、経営上・経理上、パイロット・CAを首切る必要なかったなど言うのは論外だ」と訴え、JAL闘争を支える京都の会の駒井高之事務局長は 10 年前 165 名の不当解雇を行った責任者の稻盛和夫 JAL元会長は自らの正義感の強かった母親のことを書いた著作で、「士族出身のお金持ちのきれいな服を着たお母さんのいる同級生をえこひいきする担任教師と、中学受験が内申書のひどい書き方で不合格になっても闘った」と正義感あふれる少年時代を書いているが、そんな正義の味方がなぜ 165 名の不当解雇をしたのか、晩節を汚さぬようただちに争議を解決せよと訴えた。

最後に参加者全員で二つの大型横断幕を両面に示し、商店街を練り歩いて往復し、アピールした。

